様式２

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	17・教出	第１学年 第２・３学年（上） 第２・３学年（下）	音楽・725 音楽・825 音楽・826	中学音楽１　音楽のおくりもの 中学音楽２・３上　音楽のおくりもの 中学音楽２・３上　音楽のおくりもの
取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　歌唱 第１学年では、斉唱から混声三部合唱までを扱い、主旋律や他の旋律とのかかわりを意識しながら歌ったり、情景を思い浮かべながら日本の歌曲や世界の歌を歌ったりする活動、第２・３学年では、斉唱から混声四部合唱までを扱い、曲想を味わい、声部の重なり方などを理解しながら歌ったり、曲の特徴を生かしながら日本の歌曲や世界の歌を歌ったりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　器楽 第１学年では、太鼓による即興演奏をしたり、箏による縦譜の読み方を通して演奏したりする活動、第２・３学年では、打楽器やリコーダー、箏、雅楽の楽器を用いて曲想にふさわしい表現を工夫したり、音色に気を付けて演奏したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　創作 第１学年では、身近な言葉のリズムの特徴を理解して旋律をつくったり、日本語の抑揚を生かした旋律をつくったりする活動、第２・３学年では、動機を変化させながら旋律をつくったり、地域の名所や名物を紹介するCMソングをつくるなど、全体の構成を工夫して表現したりする活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　鑑賞 第１学年では、我が国の伝統的な音楽や世界の諸民族の歌と楽器の音楽を聴く活動を通して、多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する活動、第２・３学年では、我が国の伝統的な音楽に親しんだり（雅楽、歌舞伎、郷土民謡、芸能）、オーケストラの響きや楽器の特徴を感じ取ったりするなど、多様な音楽に対する情景や構成の理解を深める活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　〔共通事項〕 第１学年では、活動内容に示された〔共通事項〕を意識しながら、曲のまとまりを感じ取って歌ったり、曲想の変化を感じ取って、曲を聴いたりする活動、第２・３学年では、活動内容に示された〔共通事項〕を意識しながら、楽曲の特徴を生かして表現したり、曲の構成や流れを感じ取って聴いたりする活動が取り上げられている。 ○　知識・技能の習得、活用、探究への対応 第１学年では、図を見ながら呼吸や姿勢、発音などを意識して発声したり、指揮の仕方について体験したりする活動など、第２・３学年では、音楽を形づくっている要素のはたらきについて話し合うなど、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る学習活動が取り上げられている。			
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 全学年で、斉唱や簡単な重唱を通して、曲の構成や音の重なりを理解する活動の後に、混声合唱を通して、曲想や歌詞の内容を味わいながら歌唱する活動を扱うなど、系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。 ○ 内容の分量 第１学年～　歌唱の教材数は21、器楽の教材数は2、創作の教材数は3、鑑賞の教材数は52であり、総ページ数は84ページで、前回より約14%増となっている。 第２・３学年～　歌唱の教材数は43、器楽の教材数は9、創作の教材数は4、鑑賞の教材数は46であり、総ページ数は168ページで、前回より約14%増となっている。（上下を合わせた数）			
使用上の配慮等	○　多種多様な演奏家の写真とコラムを巻頭に位置付けしたり、様々な音楽を楽しみながら基礎的な事項の確認や理解ができる「Let's Try!」と「Let's sing!」を掲載したり（全学年）、学習資料として音楽著作権や音楽療法についてもふれたり（２・３ 下）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　言語活動の充実を図るため、鑑賞の活動において紹介文を書くことや学習活動のヒントをキャラクターによる「吹き出し」で掲載したり（全学年）、「創作」の活動などを通して、身近にある楽器で音を確認しながら学習を進める「音のスケッチ」として示されたり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　巻末の「楽典」のページに各学年で学習した〔共通事項〕を示したり（全学年）、学習参考資料として各種コラム（全学年）や、西洋の楽器（１年）、和楽器（２・３年上）、作曲家年表（２・３年下）、さまざまな舞台芸術（２・３年下）などをまとめて掲載したりするなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道と関連のある教材として、民謡の「ソーラン節」「江差追分」、大雪クリスタルホールにある作詞者直筆の碑の写真、キタラのパイプオルガンの写真、「時計台の鐘」とともに札幌時計台の写真が掲載されている。 ○　小学校からの学習の積み重ねと系統性を考慮し、題材構成や教材排列を工夫している。 ○　全ての生徒が学習しやすいよう、色覚等の特性を踏まえた、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字などの工夫がなされている。			